◆TEKU･TEKU 2017★大高建築展＋上野リノベ企画（活動記録）◆

企　画■建築家の原点を訪ねて（その３）　～大高正人の方法展から上野リノベーションを歩く～
日　時■２０１７年2月4日（土）１３：４０～１７：００
コース■国立近現代建築資料館「ＰＡＵ・建築と社会を結ぶ大高正人の方法展 」～ 上野公園・東京文化会館 ～ 東上野ROUTE89 BLDG ～ 同潤会上野下アパート建替事業地区 ～ 入谷・根岸界隈
参加者■◎井手幸人、上野朋子、大竹　亮、栗原　徹、重永真理子、鈴木丞治、高橋　謙、水谷晴子
（以上８名、◎コーディネイター、敬称略）

企画主旨■国立近現代建築資料館で企画展開催中の大高正人は、前川國男に師事し、晴海高層アパート、東京文化会館などの戦後モダニズム名建築の設計を担当しましたが、その建築思想は、都市を構成する建築を理論的・合理的に生み出すというもので、坂出人工地盤や広島基町高層住宅にそれが結実しています。あわせて、上野駅近くの工場を本屋＋イベント会場にリノベーションした ROUTE89 BLDG を訪問します。戦後復興期・高度成長期のモダニズム建築家が都市に対して働きかけた役割を見つめ直すとともに、現代の建築家によるリノベーションプロジェクトを合わせて体験し、都市と建築の関係を一緒に考えてみましょう。

＜参加者の意見・評価＞

１◆国立近現代建築資料館／建築と社会を結ぶ「大高正人の方法」展　　評価:4. 43　内訳:AAAAABB

評価Ａ●大高正人は単体建築だけでなく都市のスケールまで考え、そのうえで建築をつくっていたことが良くわかり、非常に興味深い内容だった。

評価Ａ●過去に提案されたことが時間を経て形になっていく経緯、形にはなりきらないが何らかの影響を周辺に与える経緯が感じられました。

評価Ａ●大高正人再発見であった。建築家は作品に名前が出るが、都市計画家は出ることが少ない。大高の仕事の多くは都市設計であり、その全貌が知られていなかったように思う。東京文化会館設計に際しての上野再開発構想や、槇文彦と組んだ大胆な新宿開発構想など本当にすばらしい。彼の建築も都市のあるべき姿を見据えてのものであったと理解できた。会場上映ビデオでの蓑原氏のコメントが秀逸。

評価Ａ●ご本人が書かれた葉書など、個人的な資料を興味深く読んだ。もののない時代に努力された様子が読み取れ、貴重な資料であった。

評価Ａ●メタポリズムや同世代の建築家と大高正人という建築家の立ち位置の違いがよく分かる展示会でした。

評価Ｂ●この展示会により、大高氏がメタポリズムという日本独自の建築デザイン運動のメンバーであったことを知りました。また、大高氏が次第に都市デザインの領域に進んでいったことも理解できました。

評価Ｂ●大高と関わった様々な人々が彼の人となりを語ったビデオが、とても印象的であった。

２◆大高正人の思想と実績を見て、現代の都市と建築のあり方について、どのような示唆を得られたか？

●大高正人の時代は建築家が建築を設計するとともに都市を構想し、それを実現するために建築を設計していたように思える。しかし現代の都市は経済に支配され、建築家が都市を構想することは極めて難しくなっている。建築家が都市に対して何ができるのかについて考えなくてはならないのだろう。

●現代の都市に低所得者がどの様に住めるかを模索した建築家の一人だと思います。その一つの解答が、広島の基町、坂出の人工地盤。

●東京文化会館の設計当時より、建物のデザインより、上野駅を含むランドスケープの在り方について深く考慮したデッサンがあったりして、都市計画には当初より関心が在ったことが理解できた。その後、広島基町の精緻な配置計画を経て、新宿や横浜の再開発に深く影響を与えた経緯が、この展覧会を通じてよく解った。
●その建築が出現（または更新）することで、都市（敷地周辺）にどのような効果を及ぼしうるのか。あるいは、都市開発の中で個々の建築はどのような役割を担うべきなのか。こうした都市と建築の関係性は、大高らのモダニズム時代には自明であったし、その後バブルの時期には外国人建築家がその良き実践例を残してくれたが、21世紀の都市再生では希薄になりつつあるように思える。
●メタポリズムは高度経済成長の時期が終わると終息に向かったそうですが、東日本大震災からの復興、少子高齢化により問題が顕在化してきた現在、再評価が必要ではないでしょうか。

３◆東上野のリノベーションプロジェクト「ROUTE89 BLDG」　　評価:2. 71　内訳:ABBBBCC

評価Ａ●廃工場が都会のオアシスに。元の建物の良さを活かしながら建物を新しく生まれかわせる。自分の仕事に何か活かせないか、考えさせられました。
評価Ｂ●人通りはほとんど期待できない道路に面した目立たない建物、一昔前なら絶対に成立しなかっただろうが、ローコストだがセンスの良いリノベーションとＳＮＳのおかげでちゃんと人が来ている。
評価Ｂ●町工場と住宅の混在地帯にある普通の小さなビルが、見違えるように活用されていた。ブックカフェの居心地はすこぶる良さそうだ（実際そうだった！）し、屋上パーティスペースという発想も面白い。
評価Ｂ●楽しい空間でした。趣味と実益の狭間にあるように感じました。もう少し実益寄りになると継続性と次のプロジェクトへの波及が望めるのではないでしょうか。（コーヒーはとっても美味しかったのですが、もう少し早く出して欲しかったですね）
評価Ｂ●リノベ後に入っている店舗間の区分が曖昧で良い。上野駅から少し離れているためか、適度なお客さんでゆったりできたが、経営面から考えると不安。（その後、本屋は撤退し用途が変わっている模様）
評価Ｃ●コーヒーは美味しかったし面白い空間だったが、法的にクリアされているのかネットで調べてもわからなかった。
評価Ｃ●古い工場を新たなコンセプトで蘇らせた事は評価するが、ＥＶが無いなど施設整備に難がある。今後のさらなる変化に期待したい。

４■その他、今回の企画に対する感想など

●大高正人の建築展、東上野のリノベーション、建替え後の同潤会上野下アパートメントを見た後、飲み屋を探して延々と鶯谷界隈を彷徨うことに…。なかなかユニークな街歩きでした。(k/t)
●門外漢の私には大変勉強になりました。また「ROUTE89 BLDG」、気に入りました。街歩きしながら寄りたいと思います。(t/k)
●上野界隈は、見どころの多いエリアだと思いました。根岸の懇親会場はコストパフォーマンスもよく美味しかったです。ありがとうございました。(m/h)
●東上野のROUTE89 BLDGを途中で抜け出して、芸大奏楽堂での室内楽コンサート（弦楽四重奏）を楽しんでから、再び根岸の懇親会に合流しました。上野公園の緑や芸術文化と、下谷根岸の庶民的な下町地区が近接していることを実感しました。そして、上野駅の上に大きなデッキを架けて、その両者を融合させようとした大高構想（実現せず）の慧眼ぶりに改めて敬服しました。同潤会の建替マンションと小さなリノベーションを合わせて見たことで、建築と社会に関する立体的な企画になって、とても考えさせられましたね。(o/r)
●国立近現代建築資料館の企画展示は、いつも興味深いし、勉強になります。また、リノベ建築は上野駅周辺でこれから増えてくると思います。近いうちにリノベで生まれた新たな施設が上手くネットワークし、新上野文化として再編されるのでは、といった機運を感じました。(i/y)